

# 世界の食料需給の中長期的な見通しに関する研究 (行政対応特別研究)

## 1. 研究目的

世界の食料需給をめぐる情勢は引き続き逼迫基調が見込まれる中、最近、穀物の国際価格は再び上昇傾向で推移しており、国際社会が注視する関心事となっている。こうした中で、食料の6割を海外に依存する我が国において、刻々と変化する世界の食料情勢に的確に対応し、今後、国民に対する食料の安定供給を確保していくためには、食料輸入大国という立場から、我が国で独自に世界の食料需給の見通しを行い、これを内外に幅広く提供していく必要。

また、食料輸入国の立場から、新たな国際食料需給モデルを開発し見通しを策定・公表していくことは、様々な国際交渉の場で食料輸出国と議論を行う場合に有益。

## 2. 研究内容

プロジェクト研究「世界の食料需給の中長期的な見通しに関する研究」(平成20～22年度)において開発した、「世界食料需給モデル」を用いて、10年後の世界の食料需給の見通しを実施。

なお、「食料・農業・農村基本計画」(平成22年3月30日閣議決定)第3-1(4)③アにおいて、「総合的な食料安全保障の確立」の中の「国際的な食料の供給不安要因への対応」において、「将来的に起こりうる世界の食料需給の不均衡に対応するため、様々な中長期シナリオを予測し、国際的な食料需給の変動を分析できる能力を強化する」とされており、行政部局の要請に応じて、シナリオ分析等を実施。

## 3. 研究成果の活用方法

- (1) 世界の食料事情の変化に対応した新たな食料戦略の検討に活用。
- (2) 「海外食料需給レポート」等の行政側が公表する資料等に掲載し、国民各層に幅広く情報を提供。